

あんげろす

我信ず。信なき我を助けたまえ。
(Mk9, 24. Vgl. Par.)

てんかん症状の子供の治癒を主イエスに懇願した父親は「できるなら私どもを憐れんで助けて下さい」と言った。主イエスは「できればと言うか。信じる者には何でもできる」と言われた。そこで父親は、我信ずと信仰の告白を吐露した。

さて二つのことを黙想としたい。父親の信仰告白は論理的に矛盾しているが、これこそ我らの信仰である。内省して信なき我を自覚し、我が信仰を常に人間の業として相対化する勇気と謙虚を身に帯び、主の前にあっては我信ずと告白しうる天来の真実に生かされるのである。だが主イエスの信仰思考は全く異なっている。主の信仰には限界がない。Mt20, 29が「からし種一粒の信仰が山を動かす」(Mk10, 27; 11, 23f参照) という有名な主の言葉を物語の結語にした解釈は、それを表している。また Mk9, 29は「祈りによらなければ」と弟子たちに告げた主の言葉を結語として人間の相対的信仰に天に通ずる「ヤコブの梯子」(Gen28, 12) を架けられた。

吉田 泰

第 2 号

1992. 9